皆さんと一緒に、枚方の政治を変えていきたい！

授業のユニバーサルデザインにより学力向上に取り組め！

学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、子どもたちが楽しく「わかる・できる」を目指し、工夫や様々な子供への配慮等を行う「授業のユニバーサルデザイン」（以下：UD）。全国で取り組みが広がる中、学力向上に有用と考え取り上げました。

質問3 UDの観点をふまえた教室の環境整備についての取り組みをお聞かせください。

答弁3 小中の初任者研修の手引きの中で「黒板周りから不必要な掲示物を取り除き、黒板に注目しやすいようにする」など例示、**集中して学べるUDを取り入れた学習環境の整備に取組んでいます**。また校内研修や小中の合同研修会等で講師を招聘して学ぶなど、教室の環境整備を実践している学校もあります。

岩本の考え 3

全国学力・学習状況調査の結果をふまえた上で、**更なる学力向上への取り組みが必要**です。現場で確認したところ、まだまだ、**UDの取り組みが十分なされていない**ようでした。教育委員会として、UD整備が学力向上に有用と捉えているのであれば、**現場への徹底が重要**です。

子供たちの放課後の安全を確保せよ！安全確認について

共働き世帯の増加やSNSなどネット普及によるコミュニティの変化。子供たちの安全確保の取り組みがこれまで以上に求められています。

質問4 **児童の放課後の安全確保が重要**と言われる中、放課後に確実に留守家庭児童会室に登室できるよう、注意が必要ですが、どのようなルールで安全確認をされていますか？

答弁4 一人ひとりの児童の出欠を毎日しっかり把握し、変更や急な欠席等は必ず保護者に確認しています。慣れるまでは児童会室職員が教室まで迎えに行き、安全に登室できるようにしています。今後も学校・保護者と連携を図りながら、**児童の安全確保に努めます**。

質問5 中には、「放課後自習教室（各学校で週2日程度実施）に参加してから留守家庭児童会室にいく児童もいます。放課後自習教室では、参加状況をどのように把握し、安全確保をどう指導されていますか？

答弁5 支援にあたる"やる気ングリーダー"が参加児童を把握しています。また自習教室の実施に際し、安全管理の徹底を指示しています。児童会室との連携含め、児童の安全確保に努めます。

岩本の考え 4

子供達を犯罪から守る取り組みだけでなく、**子供達に危険を回避する行動への意識づけも重要**です。小学校と留守家庭児童会および放課後自習教室が45校それぞれでしっかりと連携し、安全確保の取り組みが必要です。

すべては枚方の未来のために

教育人事権の委譲を目指せ！

教職員の人事とは、採用・研修・異動の三本柱から成り立つと考えます。中核市移行に伴い、研修は市が行うようになりました。残る採用と異動についても、枚方市が行っていくべきです。

採用 異動 研修

質問6 中核市移行により**教職員研修を枚方市が行えるようになりました**が、府教委の時の研修と比べどう変わったのかお聞かせください。

答弁6 今年度の教職員研修は「『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ」を目標にしています。初任者研修は、少人数編成の研修や模擬授業・演習等の実践的な研修、本市文化財や公共施設の研修を取り入れるなど、**枚方市での実施の利点をいかした内容**が可能となりました。また直接指導できる機会が増え、きめ細かな指導が可能となりました。

質問7 府内では、すでに人事権を移譲された市町村があり、国でも中核市に移譲すべきとの論議があると聞きます。大阪府と国の動きについてお聞かせください。

※政令市を除く市町村立学校の教職員の採用、任命や異動などを行う人事権は、法令により都道府県にあります。

答弁7 府では条件整備をすすめ、希望地区に人事権を委譲できるようにしました。24年4月から豊能地区3市2町が移譲を受け、独自に教職員の採用・任免などの人事を行っています。現時点で府は、人事権移譲には一定規模が必要であるとして、**地区ブロック単位での申し出の場合のみ検討**としています。国では現在、広域の人事調整の仕組みを構築する等の条件を整えた上で**中核市に対し人事権を移譲する方向での論議**が行われています。

質問8 地域で、教員を目指す大学生と話すと、将来この枚方市で先生になりたいといった声がありました。「どの街でもいいから先生」ではなく、枚方で先生をしたい志望者は、他にもいるのではないか。こうした人間の採用で、枚方の教育の充実につながると思いますが、市が人事権の移譲を受ける際の課題を、具体的にお聞かせください。

答弁8 枚方市が移譲を受けるにあたり、（人材確保を含む）諸条件を満たせる適正規模を確保できるか、また特色ある取組みのために、十分な給与財源も移譲されるか等が、課題です。さらに市単独で移譲を受けた場合、これまで積極的に行ってきた北河内ブロックや府内の他市町村との広域の人事異動・交流が、かなり制限されることも課題です。これら課題も踏まえ、**枚方市の子ども達の教育の充実という観点に立った見極め**が必要です。

岩本の考え 6

枚方市は、**教育文化都市**を都市ブランドとして掲げています。教育課題に対し、戦略的に取り組んでいくために『枚方市の学校なのに、大阪府が採用し府が配置を決める』市民にわかりにくい仕組みから『枚方の先生は、枚方市が責任を持って募集・採用・育成する』仕組みに変えていく必要があります。

今後、例えば地区ブロック単位での人事権移譲にも、**北河内唯一の中核都市として7市をまとめ上げる位の姿勢で、積極的に取組むべき**です。

12月議会は、以下の項目についても質問しています。

- 審議会委員等の選任基準について
- わかりやすい住居表示と変更手続きについて
- 第5次枚方市総合計画について

少子高齢化・人口減少が進む枚方市。
今こそ行財政改革を
断行していかねばなりません。

＊＊＊この議員報告は市政調査の目的で発行しています＊＊＊